

# 北関東防衛局広報

令和4年3月(第110号)

編集・企画発行 | 北関東防衛局総務部広報室  
埼玉県さいたま市中央区新都心2-1  
<https://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/>



「普門院 船形山 大福寺(崖観音)」(写真提供: 館山市)

## 目次

## CONTENTS

- 2 百里基地で米軍再編に係る訓練移転を実施
- 2-3 南関東防衛局との合同セミナーを連続開催
- 4 入間基地に災害対処拠点施設および自衛隊入間病院が完成  
岸防衛大臣 木更津駐屯地でV-22に搭乗
- 5 わが町紹介(～東京都立川市～)
- 6 事務所だより(～千葉防衛事務所～)
- 7 防衛白書パネル展  
横田飛行場高さ制限  
令和4年1月14日付幹部紹介
- 8 北関東防衛局からのお知らせとお願い
  - ・レーザー光線の航空機への照射は犯罪です
  - ・ドローン規制についてのお知らせ
  - ・在日米軍従業員募集

## 百里基地で米軍再編に係る訓練移転を実施

令和3年12月13日から17日までの5日間、航空自衛隊百里基地(茨城県小美玉市)において、米軍再編に係る訓練移転(日米共同訓練)が実施されました。

今回の訓練には、米海兵隊第12海兵航空群(山口県岩国市)からF/A-18戦闘攻撃機8機、航空自衛隊第7航空団(百里基地)からF-2戦闘機8機が参加し、百里沖空域において戦闘機戦闘訓練を行いました。

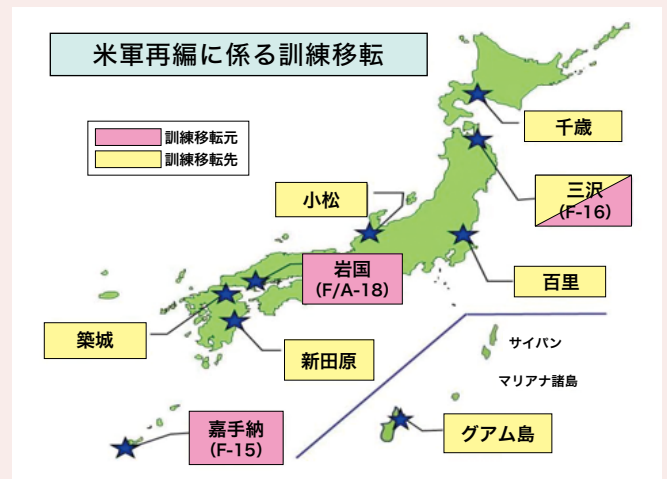
米海兵隊第12海兵航空群のジェレミー・ヨーク中佐及び航空自衛隊第7航空団の東 栄光2等空佐は、今回の訓練の成果について、「真摯に訓練に向かい合い、言葉の壁を乗り越え訓練の計画から教訓の導出に至るまでの一連の過程を共に実施し、技量向上に切磋琢磨したことは、新たな信頼と友情を芽生えさせるものであった。また、戦闘機戦闘訓練等の機会を通して、学びを高め、部隊間の相互運用を高めることができた。」と述べました。



### — 米軍再編に係る訓練移転とは —

平成18年5月の再編の実施のための日米ロードマップに基づき、二国間の相互運用性の向上及び米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の影響を軽減することを目的として実施しています。

平成18年度以降、米軍の嘉手納、三沢及び岩国飛行場から、航空自衛隊の千歳、三沢、百里、小松、築城、新田原飛行場及びグアム等へ航空機の訓練移転を実施しており、合計115回目、北関東防衛局管内の百里基地においては、平成30年4月以来約3年ぶり10回目の訓練移転になります。



## 南関東防衛局との合同セミナーを連続開催

当局は南関東防衛局と合同で、令和4年1月20日に「首都直下地震に備えよ」を、同月29日に「日本の宇宙開発～宇宙領域の安定的な利用のために～」をテーマに防衛問題セミナーを開催しました。これらのセミナーは、当局と南関東防衛局それぞれで単独での開催を計画しておりましたが、両セミナーとも広範な地域からの関心が見込めるテーマであること、同時期にオンラインでの開催を計画していたことから合同で開催することとしたものです。

両セミナーの開催に当たっては、両局がそれぞれの管轄区域を中心に広報活動を行ったほか、再配信又はアーカイブ配信の実施により視聴者の都合に配慮し、同時期開催と申込フォームの共通化による効果が表れた結果、両セミナー合わせて1,571人の申込があり、そのうち4割を超える674人からは両セミナーへの申し込みがありました。(首都直下地震セミナー 申込者:1,210人、視聴回数:1,576回、日本の宇宙開発セミナー 申込者:1,035人、視聴回数:1,740回)。

次ページで両セミナーのプログラムと講演の内容、視聴者からの声を紹介いたします。

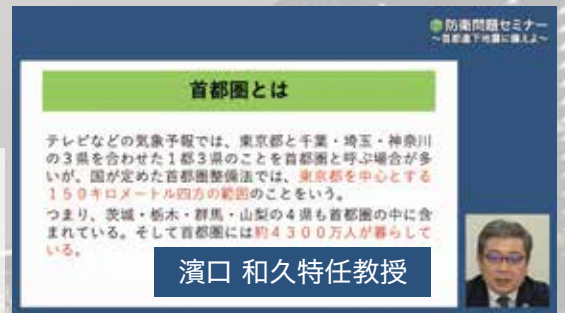
# 首都直下地震に備えよ

令和4年1月20日YouTube配信(同月22日に再配信を実施)

本セミナーでは、基調講演や質疑応答の場を通じて、講師の拓殖大学大学院濱口和久特任教授から、個々人が備えておくべき物事、コロナ禍においては在宅避難が有力な選択肢となること、一人一人の防災意識の定着等が災害に強い街づくりにつながるなど防災力向上に直結する数々のご説明、学校における避難訓練や防災教育で工夫すべき点や必要な点、共助の力を最大限発揮するために必要なこと等について分かりやすいご回答をいただきました。

また、ジャーナリストの井上和彦氏からは、東日本大震災等で被災された方々への生活支援に昼夜の別なく励む自衛隊員の姿、数多くの災害現場における被災者から自衛隊への生の声等を熱く語っていただくとともに、災害現場における自衛官の使命感、米軍によるトモダチ作戦等について懇切丁寧にご回答いただきました。

視聴者の方からは、「自助、共助の必要性を具体的な事例を多数あげて分かりやすく説明していただいた。」、「配布資料を社内にも展開し防災意識向上に役立てたい。」、「災害派遣現場の様子をありありと浮かび上がらせる講演であった。」等の好評をいただきました。



# 日本の宇宙開発

～宇宙領域の安定的な利用のために～

令和4年1月29日YouTube配信(2月28日までアーカイブ配信を実施)



本セミナーは、令和3年版防衛白書で特集されている宇宙領域をテーマとした初めての防衛問題セミナーであり、JAXA宇宙科学研究所の吉川真准教授から、世界各国が取り組んでいる「Planetary Defense」とはどのようなものか、過去地球上で起こった天体衝突例とその影響、地球に衝突する可能性のある小惑星を発見することの重要性、探査機による小惑星の軌道を変える試みなどについて、また、航空幕僚監部防衛部事業計画第2課長林育正1等空佐から、航空自衛隊が行っている宇宙状況監視(SSA)の意義、SSA態勢整備の現況、今後の課題についてご講演いただきました。

視聴者の方からは、「宇宙開発が地球や我が国を守るために重要な分野だと分かった」、「防衛省は民間・他省庁との連携を強化すべき」、「もっと多くの人が視聴すべき」、「どちらの取組も続きをぜひ知りたい」等の感想や意見をいただきました。



☆YouTubeチャンネル登録をお願いいたします☆

首都直下地震セミナーは、右記の当局YouTubeアカウントにて配信を行いました、今後、このアカウントを通じて当局が主催、参加するイベントや行事を幅広く紹介してまいります。

北関東防衛局 防衛問題セミナー

# 入間基地に災害対処拠点施設および自衛隊入間病院が完成

大規模災害時等の発生に対して所要の部隊を迅速に展開させ、また、各種事態や国際平和協力活動等の多様な任務への対応能力を強化するため、自衛隊病院の拠点化・高機能化の一環として、航空自衛隊入間基地に「災害対処拠点施設」および「自衛隊入間病院」が完成しました。



病院外観



CT撮影室



歯科室



エントランス・待合室



応急処置室



各施設の概要

隊舎棟・教育棟

病院棟

訓練場

陸上競技場

サッカー場兼ソフトボール場



陸上競技場(400mトラック)

診療科目：内科、外科、整形外科、救急科、麻酔科、精神科、小児科、歯科、歯科口腔外科、航空医学診療科

災害対処拠点施設(平時)：陸上競技場、サッカー場兼ソフトボール場、訓練場

# 岸防衛大臣 木更津駐屯地でV-22に搭乗

令和4年1月29日、岸防衛大臣は、災害派遣、国際緊急援助隊活動等の多岐に亘る重要な任務を担う隊員を激励するため木更津駐屯地を訪れ、その際、暫定配備されているV-22に搭乗し、すべての飛行モードで高度に安定した飛行が行えることを大臣自らが改めて確認しました。

その後の渡辺木更津市長との面談では、自衛隊の活動への理解と協力に対する謝意や部隊・隊員の練度向上を図る教育訓練を着実に進めることなどをお伝えし、渡辺市長からは、飛行訓練等の際に周辺地域への配慮がなされていることや北関東防衛局による補助事業等の施策に対する謝意などの発言がありました。



V-22に搭乗する岸防衛大臣(右から2番目)



渡辺木更津市長(手前右)との面談

わが町紹介

～東京都立川市～



## 立川くらいが、一番いい



立川市は東京都のほぼ中央に位置する人口約18万5千人の都市です。たちかわ競輪は70年の歴史を持ち、自転車競技も盛んです。また、「立川まつり国営昭和記念公園花火大会」は、約70万人が訪れる夏の風物詩です。立川市は都内1位の生産量を誇るうど、ブロッコリーほか農畜産業が盛んで、四季折々の味覚を楽しむことができます。5月の「立川いったい音楽まつり」には300団体以上のアーティストが集まり、立川駅北口周辺にひろがる109作品のパブリックアート「フェーレ立川アート」とともに、文化芸術を身近で感じられます。そして、10月には「箱根駅伝予選会」、3月には「立川シティハーフマラソン」も開催され、若きランナーたちによる数々のドラマが繰り広げられています。このように多様性に富んだ立川市は、昨年決定したブランドメッセージ「立川くらいが、一番いい」を広く発信し、まちの魅力づくりに取り組んでいます。



## 防衛施設周辺対策事業

戦前からの立川飛行場は米軍立川基地となり、昭和52年11月に全面返還されて、現在は広域防災基地となりました。横田基地も所在する立川市には、基地とともに歩んできたという歴史もあります。令和2年度には補助事業により、泉市民体育館ランニング走路を改修。市民の体力づくり、健康づくりに役立っています。



## 事務所だより

## ～千葉防衛事務所～

## 勝浦 阿波からつながる漁港のまち

東京から南東に約80Km離れた千葉県勝浦市は、江戸時代から春から初夏にかけて房総半島沖に回遊するカツオ漁業の拠点であり、勝浦漁港は全国有数のカツオの水揚げを誇っています。他にもマジキ、キンメダイ、イセエビ、アワビ等が水揚げされており、近年は大型のクロマグロも水揚げされるなど魚介類の宝庫です。

このような勝浦の朝は朝市で賑わいます。かねてから海産物や農産物の物々交換が各所で行われていたものを天正18年(1590年)勝浦城主の植村土佐守泰忠により1箇所にとめて開設されたと伝えられ、今では日本三大朝市の1つに数えられています。かつては上本町、仲本町及び下本町で10日ごとに開催場所が入れ替わっていましたが、現在では月の前半を下本町、後半を仲本町で実施されるようになっており、漁港で水揚げされた新鮮な海産物や加工品、竹細工などの工芸品も購入することができます。

朝市を楽しまれた後は勝浦タンタンメンを召し上がってみてはいかがでしょうか。およそ半世紀以上前に当時の漁師、海女さんに寒い漁仕事の後に体を温めてもらうために、市内にあった食堂で提供され、人気を博したことから他の飲食店においても供されるようになり定着したものです。メニューの特徴は一般的に見られる練り胡麻を

加工して作る芝麻醬(チーマージャン)の風味を効かせたものと異なり、醤油味のスープにラー油が多く使われ、具材としてひき肉のほか、みじん切りの玉葱が入ることです。

また、まちおこし団体「熱血!!勝浦タンタンメン船団」を結成し、ご当地グルメを使った地域PR活動を行い、平成27年のB-1グランプリin十和田ではゴールドグランプリ(1位)を獲得するなど、今や全国的な知名度を誇っています。現在、約40軒の正規取扱店の中では、焼きそば、パスタ等のアレンジメニューも生まれています。



勝浦タンタンメン



勝浦漁港で水揚げされたカツオ



朝市の様子

さらに勝浦市では毎年2月下旬から3月にかけて「かつうらビッグひな祭り」が開催されます。

これは、平成13年に友好関係があった徳島県勝浦郡勝浦町からひな人形の寄贈を受けたことから、勝浦の氏神であり阿波国(現在の徳島県)由来の天富命(あめのとみのみこと)を祭神とする遠見岬(とみさき)神社の参道の石階段を始めとした市内各所に飾られることとなり、期間中約16万人の観光客が訪れるイベントになっています。残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止のため平成31年の第19回を最後として開催を中止している状況ですが、来年は無事第20回の祭が開催されますよう新型コロナウイルスの終息を願ってやみません。



遠見岬神社の石階段に飾られたひな人形

(写真は千葉県勝浦水産事務所及び勝浦市観光協会提供)

## 防衛白書パネル展



令和4年2月8日～20日までの間、東京都昭島市所在のアキシマエンスシ(注)内市民ギャラリーにおいて防衛白書パネル展を開催しました。防衛白書広報は、毎年当局管内1都7県(千葉、茨城、埼玉、栃木、群馬、長野、新潟)の全414自治体の長等を対象に行ってきました。これに加え、国民一般の方々への説明の場として、自治体施設での防衛白書パネル展を初開催したものです。

今回展示したパネルは、防衛白書ダイジェスト版のほか、自衛隊の災害派遣、米空軍横田飛行場、当局の業務に関するもの計40枚で構成しました。

本パネル展示については、今後も随時実施していく予定です。パネル展示にご協力いただける自治体、施設やイベントがございましたら、企画部地方協力基盤整備課(048-600-1844)まで是非ご一報ください。

(注)昭島市が、防衛省の「まちづくり支援事業」を活用し、国際交流教養文化施設として図書館、郷土資料館、市民ギャラリーなどが整備され、令和2年2月に完成。

## 横田飛行場高さ制限

飛行場には航空機の安全な運航を確保するため、航空機の離着陸の経路に当たる一定の空域に飛行場の規模に応じて建物等の高さの制限が設けられています。

この度、横田防衛事務所と横田基地第374空輸航空団・施設中隊は、協議の結果、横田基地ホームページ(<https://www.yokota.af.mil/>)で横田飛行場周辺の建物等の高さの制限を地図で確認できるサービスの提供を始めました。

米空軍横田基地ホームページにアクセスすることにより、いつでも横田飛行場周辺の建物等の高さの制限について確認することができるようになりました。

### 利用方法

北関東防衛局HP

(<https://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/>)

トップページ右側の下記バナーをクリックすると利用方法が参照できますのでご活用ください。



## 令和4年1月14日付幹部紹介



総務部長  
田中 文明

1月14日付で総務部長に着任しました田中です。

地方防衛局の勤務は、これまで北海道、中国四国、九州及び沖縄でしたが、出身地(群馬県甘楽町)に近い北関東防衛局での初勤務に感慨深いものがあります。

当局管内には、自衛隊及び在日米軍の重要な施設が多数所在しており、これら防衛施設の安定的な使用のため、引き続き、地元の皆様方の御理解と御協力をいただけるよう、日々の業務に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



企画部長  
坪倉 幹男

1月14日付で企画部長に着任しました坪倉です。

北関東防衛局での勤務は三度目となり、慣れ親しんだ職場で勤務できることを大変嬉しく思っております。

当局の一員として、当局管内に所在する自衛隊及び在日米軍と地方公共団体や地域住民の方々をつなぐ「架け橋」になれるよう努めたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

# 北関東防衛局からのお知らせとお願い

## レーザー光線の航空機への照射は**犯罪**(注)です。

東京都内、神奈川県内、沖縄県内等で飛行中の航空機に対してレーザー光線を照射するという事案が多発しています。

墜落等による大惨事をもたらしかねない大変危険で悪質な犯罪ですので**決して行わないで下さい。**

照射している人を見かけた方は**110番通報**をお願いいたします。

(注)平成28年12月、改正航空法施行規則が施行され、規制が強化(レーザー光線を航空機に向かって照射する行為自体に罰則(50万円以下の罰金))。刑法の威力業務妨害罪(3年以下の懲役又は50万円以下の罰金)、航空危険行為処罰法の航空危険罪(3年以上の有期懲役)等に該当する場合あり。



レーザー光線による操縦士への影響(イメージ)

**平成27年12月及び平成28年11月に威力業務妨害罪で逮捕例あり。**

外務省、防衛省、警察庁、国土交通省

■内容についてのお問い合わせにつきましては下記に御連絡願います。

北関東防衛局 企画部地方調整課連絡調整室  
(東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、新潟県、長野県を管轄)  
防衛省本省 地方協力局在日米軍協力課渉外班

(代表)048-600-1800(内線:2213、2236、2226)

(直通)03-5362-4851

## ドローンの規制についてのお知らせ

小型無人機等飛行禁止法により指定されている**自衛隊施設/米軍施設その周辺地域(周囲約300m)**の上空における**ドローン等の飛行は、原則として禁止**されています。

これに違反した場合、次のような措置/罰則もあります。

- 警察官等による安全確保措置
- 最大懲役1年/罰金50万円

周囲おおむね300mの地域の上空(イエロー・ゾーン)

自衛隊施設/米軍施設の敷地・区域の上空(レッド・ゾーン)



※このほか、**航空法**上の無人航空機の飛行禁止空域においてドローン等を飛行させる場合、夜間にドローン等を飛行させる場合等には、別途、**国土交通大臣の許可又は承認を得る必要があります。**

対象防衛関係施設及び飛行をさせたい場合の手続の詳細については、防衛省HPをご参照ください。



<https://www.mod.go.jp/j/presiding/law/drone/index.html>

防衛省・警察庁・外務省・国土交通省

■お問い合わせ先

防衛省 北関東防衛局 企画部地方調整課連絡調整室  
【代表】048-600-1800 (内線:2213、2236、2226)

## 在日米軍従業員募集



独立行政法人駐留米軍等労働者労務管理機構【エルモ】では、在日米軍基地で勤務する従業員の募集を行っています。興味のある方は、エルモホームページをご覧ください。下記の支部にお問い合わせください。

※求人情報提供メールサービスに登録すると、希望する求人情報がホームページに掲載される都度、お知らせメールが送信されますのでご利用下さい。

### 【Twitter 開設】

令和3年4月より、求人情報等の募集関連情報を定期的に発信いたします。ぜひ、フォローをお願いします。

アカウント名/在日米軍従業員求人情報(エルモ)



Twitter

### 【窓口応募受付・お問い合わせ先】

エルモ横田支部管理課管理第二係

住所 東京都昭島市田中町568-1 昭島昭和第2ビル4階

電話 **042-542-7663**

担当施設 横田飛行場、ニューサンノー米軍センター、赤坂プレス・センター他



<https://www.lmo.go.jp>

LMO

検索

求人情報

求人情報提供メールサービス\*

本紙に関するご意見などございましたら「北関東防衛局総務部広報室」までお寄せください。  
連絡先: 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 連絡先: 048-600-1804(広報室直通)